

平成29年度全国学力学習状況調査の結果

京都市立大宅中学校

4月18日（火）に実施された「全国学力学習状況調査」について、本校3年生116名の結果がまとめました。本調査は、国語と数学の2教科のテストと同時に、家庭の過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

国語科より

1. 国語A（主として知識）

全国平均・京都府平均より、正答率が上回る結果となりました。国語Aは、授業や日常生活での会話や読み書きにおいて必要な知識が身についているかどうかを問うものです。本校の生徒は「話す・聞く」「読む」「書く」能力については正答率が高く、「言語についての知識・理解・技能」についても、敬語・接続する言葉・慣用句はよく答えられていました。ただし、漢字・文法・書写の分野に関しては全国平均を大きく下回る結果となっています。

2. 国語B（主として活用）

全国平均・京都府平均より、正答率が上回る結果となりました。国語Bは、習得した知識を学習の過程（話し合い活動や発表）の中で活用できるかを問うものです。記述式や選択式の問題はおおむね正答率が高い結果となりました。今回正答率が低かったのは短答式の問題です。抜き出しなどの短答式の問題は抜き出す長さなど考え方を間違えて不正解になる傾向があります。

3. 今後の課題

生徒は資料を活用したり自分の考えを言葉で表現したりする力が備わりつつあります。しかし、「言語についての知識・理解・技能」、特に漢字や文法などの「正確に覚えるもの」「ルールのあるもの」に対しては苦手意識があります。漢字・文法練習や意味調べを意識的に行い、自分の中に言葉を増やして、より豊かな表現ができるようにつなげていきましょう。

数学科より

1. 数学A（主として知識）

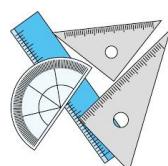
本校の結果を全国平均・京都府平均と比較してみると、全国平均と差異がありませんでしたが、京都府平均よりも少し下回る結果となりました。数と式・図形の範囲は全国平均よりも低い結果となりましたが、領域ごとに比較すると、関数の分野が全国平均・京都府平均よりも高いことがわかりました。

2. 数学B（主として活用）

本校の平均正答率の結果を全国平均と比較してみると、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」のいずれの領域においても下回る結果となりました。数学Aの知識分野では平均を上回っていることから、知識は備わっていることがわかります。また、「技能」、「数学的な見方や考え方」は全国平均を下回る結果となりました。

3. 今後の課題

生徒たちの多くは、習得した知識を持っていても、異なる事象に適応することが苦手であったり、説明することが苦手であったりします。「数学的な見方や考え方」を身につけるために、自分のことばで説明するなど、数学的な表現を意識して学習することが大切です。



生徒質問紙より

- 「何時ごろに寝ますか」の質問では、「午前0時以降」と答えた生徒は33%でした。さらに「朝食を毎日食べますか。」では食べない生徒は7.8%でした。学習の始まりは朝起きた時から、とも言われます。早寝早起きの生活習慣を早く身につけてほしいです。
- 「1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか。」の質問には「4時間以上」と答えた生徒が18.4%で、全国平均より7.7%も上回っています。また「1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。」の質問にも「4時間以上」と答えた生徒が18.4%で、全国平均より9.8%も上回っており、かなり長時間使用しているのがわかります。今後は健康面や学習への影響を考えて、生活の改善をしてほしいです。
- 「学校の授業以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」の質問では「平日・1時間未満」が40.8%、「休日・1時間未満」が63.2%という状況です。これは全国平均を大きく上回っています。（「全くしない」の回答も同様です。）ただし調査は4月でしたので、半年以上たち、進路選択が目の前にきている今は改善されていることと思います。
- 生徒質問紙より、予習・復習をあまりしていない・家で計画的に勉強していないなどについての課題がみえました。学力は学校・家庭・地域での地道な積み重ねによって定着していきます。今後とも子供たちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力お願いいたします。

全体を通して

本校では『総合的な学習の時間』でポスターセッションに取り組むことにより、自ら課題を立てて情報を収集し、まとめたことを発表する力を育んでいます。「総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報をを集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」という質問に対し、70.9%の生徒が「当てはまる・どちらかというと当てはまる」と答えています。これは「総合的な学習の時間」だけの話にとどまらず、「1・2年生で受けた授業では、自分たちで立てた課題に対して自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」という質問に対し、71.8%の生徒が「当てはまる・どちらかというと当てはまる」と答えています。そして「1・2年生で受けた授業では、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかり伝えていたと思いますか」には86.7%の生徒が「当てはまる・どちらかというと当てはまる」と答えています。こういった自分で考え、発表する力が国語の学力につながってきたと思います。

また全国学力調査だけではなく、学習確認プログラムにおいても、時間いっぱいに取り組む姿勢が好結果につながりつつあります。本校ではここ数年、中学生になってから学力が急に伸びたという生徒が増えています。これもご家庭での子どもに対する積極的な関わりやご支援のおかげだと思います。引き続き子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。

